

じゅくこう

光寿無量

旧年中は大変お世話になりました。
 コロナ禍の影響など、未だ見通しのつかないところもありますが、できることを精一杯
 努めていきたいと思っております。
 本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

吉富山浄覚寺 寺族一同



第21号
(通算361号)

発行元
 浄土真宗本願寺派
 吉富山 浄覚寺
 大阪市平野区
 長吉長原3-1-10
 06-6790-8350

第20回 浄覚寺子ども会 冬のつどい

昨年の十二月二十日(日)「浄覚寺子ども会 冬のつどい」を開催しました。例年であれば朝からお餅つきをして、みんなで一緒にお昼ご飯を食べますが、マスクを外すことは極力避けるため、午後からの集合として、制作を中心とした内容に変更して行いました。

今回の子ども会でもよく20周年を迎えることができました。実は十年前の10周年の時にタイムカプセルを埋めておりました。そのカプセルを取り出し、また新たに十年後の自分に向けてのメッセージをカプセルに託して境内に埋めました。

今月のクイズ

・阿弥陀さまをはじめ、仏像にある足かきの特徴として、手の指の間に水かきがあるとされています。それはなぜでしょうか？
 ①速く泳ぎたかったから
 ②カエルに憧れたから
 ③衆生をもらさず救いたかったから

・正解は次号にて。

「これからの十年で君たちは成長し、大きく変わっていくと思う。でもお寺はいつまでもここにあります。いつでも遊びに来ることが出来る場所であり、いつまでもあなたの幸せを願っていますから」と、子供たちに伝えました。



↑10年前のタイムカプセル



↑今回埋めたカプセル



若不生者の
にやくふしやうじや

ちかひゆゑ

信楽まことに
しんぎやう

ときいたり

一念慶喜
いちねんきやうき

するひとは

往生かならず
おうじやう

さだまりぬ

《浄土和讃》



御文章に聞く(第18回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回の御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。これまで、様々な状況で差別されてきた女性のことをお伝えしてきました。『仏説無量寿経』の第三十五願に「私が仏になるとき、すべての数限りない仏がたの世界の女性が、私の名を聞いて喜び信じ、さとりを求める心を起し、女性であることをきらったとして、命を終えて後にふたたび女性の身となるようなら、私は決してさとりを

いまの世章(四帖第十通)今の世にあらん女人は・みなみなこころを一つにして・阿弥陀如来をふかくたのみたてまつるべし、そのほかには・いずれの法を信ずというとも・後生のたすかるということ・ゆめゆめあるべからずとおもうべし、

蓮如上人が阿弥陀さまにお任せしなさいと言われたのはこのような背景があったからです。

阿弥陀さまのたてられた四十八の願いの中で、一番重要な第十八願は十方衆生、つまり全ての人々をそのまま救い取りたいという願いです。男性は男性のまま、女性は女性のまま、善人は善人のまま、悪人は悪人のまま往生成仏できるということです。もし、女性が男性に変わらなければ往生成仏できないならば、悪人も善人にも変わらなければ往生できないことになり、女人成仏の願とは全てを救い取りたい阿弥陀さまの願いを詳しくされたもので、男女に隔てがないことをあきらかにしてくださいました。

仏教語辞典



医王

お医者さんが病気の人を治すように、仏法を説いて人々を導くところから、仏や菩薩のことを言うようになった。また薬師如来の異名でもある。医王はケガをすぐに治せるわけではないけれど、生き方や考え方に作用するお薬を使うお医者さん。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。第20回浄覚寺ごども会交のついでに内容を更し開催でしたが、無事にタイムカプセルを埋めることができホッとしています。ごども会は縁の種時です。大人になって無事に咲いてくれることを願っております。

十二月十六日、関越自動車道で最大約二千台の車が巻き込まれる立ち往生が発生した。解消まで約五十一時間がかかったとのこと、減りゆくカソリンの中、寒さと不安の中で過された方には本当に御見舞い申し上げます。

ただ残念なことは、「立ち往生」という言葉遣い。言葉は生き物であるから意味が変化していくことは否めないが、往生とは困るという意味ではなく、私がお浄土へ往生生まれていくという大切な言葉である。大事に使っていただきたいと思う。(釋法道)

2月

浄覚寺本堂で上映致します。

天王寺楽所雅売会(雅楽)の演奏会を現在、期間限定で無料配信されている

二月十四日(日) 十四時より

仏教文化講演会

行事案内

日時・令和三年一月一日(祝) 十四時より
行事・元日会
場所・長原 浄覚寺
法話・苗村隆之先生(京都)
(なお、一月の月参りは六日から伺います)

